三本木高等学校　　齊藤　琳太郎

私は今回のエネルギー研修において、多くを学び、経験でき、そして人間として成長できたと思います。これから書くことはこの研修がいかに自分の糧になったかの記録です。

（志望した動機）

私がこの研修に参加しようと思ったのは、父親の影響でエネルギーに興味を持ち始めていたところ、偶然この研修の要項を見たからです。初めて要項を見たときからこの研修に興味を持ち、農林水産省の白書などに目を通しました。その結果が自分の研修の参加につながったと思うと本当にうれしいです。

（研修に対しての目標）

私には自分が決めた２つの目標がありました。

１つ目は「研修を通して自分のなかにあるエネルギーについての考えを見直す」です。これは今回の研修のメインとなりました。フランスではラ・アーグ再処理施設とランス潮力発電所を見学、スウェーデンではフォルシュマルク中・低レベル廃棄物施設、原子力発電、ハンマルビー・ショースタードを見学しました。この施設はみな、現代のエネルギーを支える重要な施設で、どれもたいへん興味深かったです。

２つ目は「現地の高校生との交流を積極的に行う」です。これに関してはこの研修において一番良い経験ができたと思います。フランスのグリニャール高校、スウェーデンのカテドラル高校はどちらも魅力的な学校で私たちの訪問を歓迎してくれました。

（エネルギーについて）

私が一番印象に残ったエネルギー関連施設はスウェーデンの「ハンマルビー・ショースタード」です。ここはいわゆる「エコシティ」というもので、環境に優しい街作りを目指しています。何が一番印象に残ったかというとゴミの分別の取り組みです。街の至る所、たとえばスーパーの出入り口や何気ない普通の道ばたにポストのようなゴミ箱があり、そこにゴミを捨てることで地下に集められたゴミがきちんと分別されて処理場へと運ばれます。そうして運ばれたゴミはリサイクルされ、また自分たちのもとに何らかの形で帰ってくるという仕組みです。日本でも近年問題視されている環境問題が国民に危機感を覚えさせるようになってからはリサイクルが盛んになりましたが、ここハンマルビーでは徹底したリサイクルに加え、街全体で「エコ」を心がけているのです。こうした施設が日本にでき

たなら日本の資源不足を補うきっかけになるのではないかと私は考えました。
（現地高校生との交流について）
　現地の高校生との交流は現地でしか経験できない貴重な経験でした。私たち高校生は現在学校で英語を学んでいます。英語は広く世界で浸透しており、それはフランス、スウェーデンでも同じです。そのため英語を使っての現地の高校生とのコミュニケーションをとりました。
　最初はもちろん緊張しました。どのように話せば良いのだろう、伝わらなかったどうしよう、失礼な言い方になってしまったらなどと考えました。しかしその心配は杞憂に終わり、むしろ相手の方からも話しかけてくれました。私はこのときに勇気を出して話せて本当に良かったと思っています。
　文化交流は大成功といってよいぐらい盛り上がりました。日本の文化を紹介するだけでなく、相手国のギターやゴスペルなど聞くことができ、楽しく、新鮮な時間を過ごしました。
　フランスもスウェーデンも日本が好きという人が多く、特にスウェーデンでは日本語が流ちょうに話せる生徒が多かったことに驚きました。これはインターナショナルハイスクールや親のどちらかが日本人であることが関係しているようでしたが、なかには独学で学んだという人もいました。
　グリニャール高校の生徒も、カテドラル高校の生徒も私たち来訪者を歓迎してくれて、たいへんうれしく思いました。
（文化について）
　今回が初の海外経験となる私は、海外がどんな場所なのかはテレビや本でしか見たことがありませんでした。実際に現地に着くと建物から人まですべてが異文化で、新鮮でした。
　食文化は日本とは違うことは明白ですが、日本の洋食レストランとは味が違いました。フランスで食べたエスカルゴ、スウェーデンで食べた鹿の肉はどちらもおもしろい味で研修の思い出となりました。
　さらにはモンサンミッシェルやルーブル美術館など、世界に名高い名所を訪れ異国の文化に触れることもできました。
（まとめ）
今回の研修は私を大きく成長させてくれました。今回の研修に随行してくださった三上さん、北山さんをはじめとする関係者の皆さんに、本当にお世話になりました。また通訳の小林さん、博多さん、さらにはグリニャール高校とカテドラル高校、そして私たち６人を温かく見守って下さったすべての方々、本当にありがとうございました。